

## 参考文献

植村尚史(2005)「新しい高齢者像と生活ニーズ」 高齢が進んだ大都市近郊地域等における高齢者の社会参加促進方法とその地域社会に与える効果に関する研究 厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業 平成 16 年度研究報告書(主任研究者: 植村尚史) 9-20.

Bowles, S., & Gintis, H. (2002). Social capital and community governance, *Economic Journal*, 112 (November): F419-436.

鏡 論 (2005) 「大都市近郊地域等における集合住宅居住高齢者の現状と行政の対応(所沢市の例)」 高齢が進んだ大都市近郊地域等における高齢者の社会参加促進方法とその地域社会に与える効果に関する研究(主任研究者: 植村尚史) 厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業 平成 16 年度研究報告書, 115-146.

日下部眞一(2003) 「NPO の地域力を育てるために」 都市問題研究, 55, 41-52.

斉藤嘉孝 (2005) 「大都市近郊地域等における高齢者の生活とコミュニティ参加: 多摩・所沢・吹田での実態と今後に向けた示唆」 高齢が進んだ大都市近郊地域等における高齢者の社会参加促進方法とその地域社会に与える効果に関する研究(主任研究者: 植村尚史) 厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業 平成 16 年度研究報告書, 101-114.

Sampson, R. J., Raudenbush, S.W., & Earls, F. (1997). A Multilevel Study of Collective Efficacy. *Science*, 277, 918-924.

内閣府国民生活局(2003)「ソーシャル・キャピタル: 豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて」

内閣府経済社会総合研究所(2005)「コミュニティ機能再生とソーシャル・キャピタルに関する研究調査報告書」

宮川公男・大守隆(2004) ソーシャル・キャピタル: 現代経済社会のガバナンスの基礎 東洋経済新報社

山内直人(2004) 「ソーシャル・キャピタルとコミュニティ」 *The World Compass*

山内直人(2003) 「市民インデックスによる地域差測定を試み」 *ESP* No. 377.

山内直人(2005) 「シビルソサエティを測定する: 数量的把握の現状と課題」 公共政策研究, p. 53-67.

安田節之(印刷中) 米国における予防研究の動向: 理論的枠組みおよび介入研究の

側面から コミュニティ心理学研究

安田節之(投稿中) 大都市近郊の団地における高齢者の人間関係量と地域参加 老年社会科学

Yasuda, T. (2006). Multilevel-Multimethod Approaches to the Assessment of Public Participation: Implications for Population Aging in Japan. Paper presented at the 3<sup>rd</sup> Japan-Korea Seminar in Community Psychology. Yonsei University, Seoul, Korea.

米田雅子・田中義幸・野呂法夫(2005) 団塊新現役時代: NPO に生きる ぎょうせい

Lang, R., & Hornburg, S. (1998). Social Capital: Its importance to housing and community development. *Housing Policy Debate*, vol. 9.

---

i 齊藤(2005)より

## 第12章 アメリカ大都市近郊地域の高齢者の現状と地域福祉：Dr. Cullen T. Hayashida の報告から

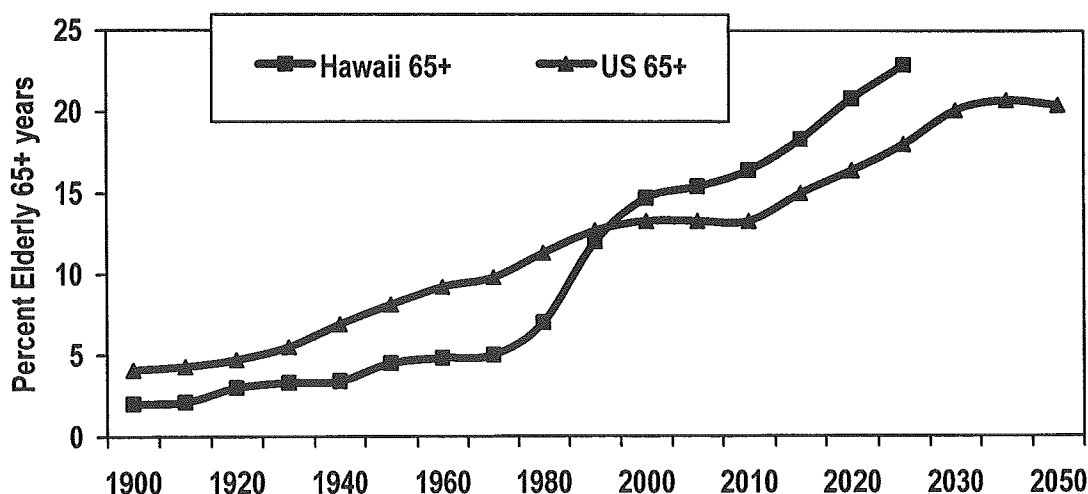
### 1. はじめに

アメリカ社会の高齢化は、日本と同様に、様々な問題点を抱えている。中でも、政府レベルにおいて、社会保障費などの高齢者への支出が軒並み増え続け、財政を圧迫している。よって、高齢者福祉における新たな人的および社会的な「資源」の産出と確保が重要な課題となってきた。

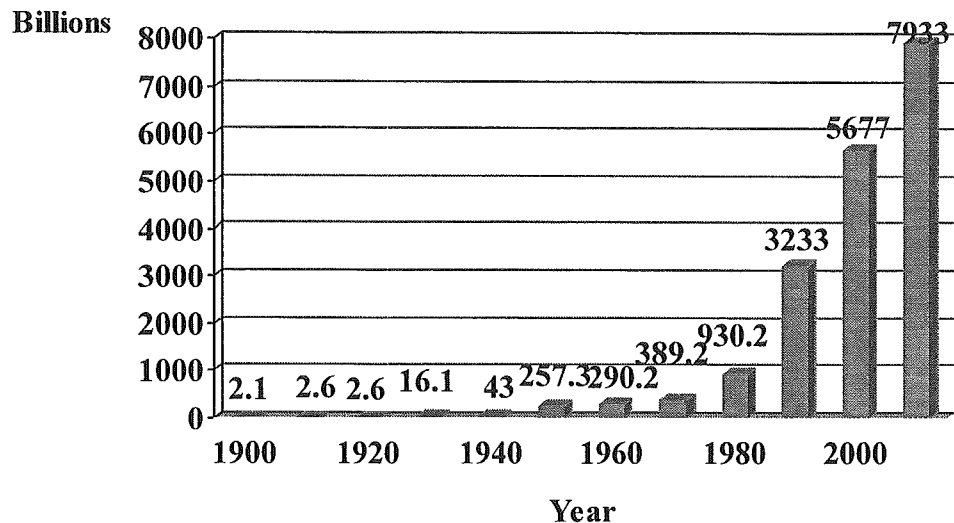
平成17年度の厚生労働科学研究における政策科学推進研究推進事業（社会福祉法人恩賜財団母子愛育会）の外国人研究者招聘事業として、米国ハワイ州からカレン林田博士(Cullen Hayashida, Ph.D.)をお招きした。本章では、彼の短期滞在期間中に実施した本研究プロジェクトの関連研究者との研究会や関連調査資料などをもとに、アメリカの大都市近郊地域における高齢者の現状と地域福祉という側面から考察していく。

### 2. アメリカにおける高齢化

米国人の平均寿命は、日本を含む他の先進国と同様に増加しており、今後さらにその傾向が高まることが予想される。特にハワイ州においては、1990年代に65歳以上の人口が、米国平均を超え、2000年を境に急激に増えてきている。



このような人口構造の変化は、米国の国家予算に多大な影響を及ぼしている。米国の借金は年々増え続け、2005年度においてピークとなっているが、その大部分を占めているのが、65歳以上の病院や介護施設における医療介護保険であるメディケア(Medicare)や貧困層におけるメディケイド(Medicaid)、そして様々な社会保障費となっている。



このような財政の状況を受け、アメリカでは過去30年間にわたり、様々な関連政策の転換・改革が行われてきた。例えば、メディケアの給付制度の改革により、現在では、高齢者の病状が悪いままでも(“sicker”)、早急な(“quicker”)退院を余儀なくされるケースが目立ってきている。またメディケイドにおいても、老人介護施設における給付額の引き下げが行われ、医療や介護の質の低下が懸念されている。

医療費および介護保険の削減へむけた制度改革は、高齢者福祉における政府レベルの役割を州または自治体に譲渡することを目的としている。それによって地域または家族が、介護予防などを含めて、高齢者ケアの担い手とならざるを得なくなっている。一方で、米国における社会構造や産業構造の変化による核家族化などは、このような地域における高齢者福祉を実現しにくくしているというのも事実である。

### 3. 高齢者福祉の担い手としてのソーシャル・キャピタル

ハワイ州における高齢者人口の増加、またそれに伴う医療・介護費用の増大とは逆に、伝統的な家族文化や地域社会の崩壊が懸念される中で、高齢者福祉はどのようにあるべきなのか。本研究プロジェクトの主な目的でもあるように、地域の強化(Capacity Building)を目指し、地域

における高齢者ケアをよりよいものにするためのコミュニティの枠組み、そしてこのような枠組みが必要となる地域を地理的に把握する方法と合わせて検討していく必要がでてくる。

具体的には、高齢者を“お荷物”と見るのではなく、地域の“資源”、特に社会関係資本(ソーシャルキャピタル)と捉えなおすことの必要性が考えられる。そして、地域のソーシャル・キャピタルに内在する知識やノウハウを活用することにより、地域の質を向上させていくことが急務である。地域の原動力が増すことにより、高齢者ケアのデリバリーシステムの質も向上し、結果として望ましい形の高齢者ケアが実現すると考えられる。

今後、高齢を迎える米国のベビーブーマー世代は、地域のソーシャルキャピタルの最たるものであるが、定年退職者層は地域において様々な資源を還元してくれる可能性がある。この資源を活かすも殺すも、各地域の判断次第ということになってくる。更に、サクセスフル・エイジング(Successful Aging)の主な規定要因としては、遺伝が30%で環境要因が70%と、地域の居住環境がいかに重要であるかが分かる。

前述のように、高齢者は地域の重要な社会的・人的資源である。このような考え方は、アセットに基づいたアプローチ(Asset-based Approach)で、欠如に基づいたアプローチ(Deficient-based Approach)と相対するものである。地域におけるアセット・アプローチは、費用対効果がよい高齢者福祉サービスのあり方を模索する際のキーコンセプトとなってくる。特に、在宅における介護などのシステムを構築し、地域に根付かせていくためには、アセット・アプローチが非常に重要となってくる。日米を問わず様々な、ソーシャル・キャピタルの関連領域における地域分析が盛んであるが、今後の地域の福祉施設や様々な社会的資源をフル活用した在宅ケアを推進するにあたっては、アセット・アプローチの代表でもあるソーシャル・キャピタルによる高齢者福祉システムに関する検討がより必要となってくる。

#### 4. 高齢化という視点から捉えた地域コミュニティの分類

日本の地方の過疎化と高齢化の進行をうけ、高齢化率にみる地域の分類は頻繁に行われてきた。しかし、高齢化率とともに重要となってくるものには、地域のインフラ、特に社会福祉基盤の量や質が考えられる。このような視点から地域を分類すると、高齢化によるコミュニティは、以下の四つに大別される。

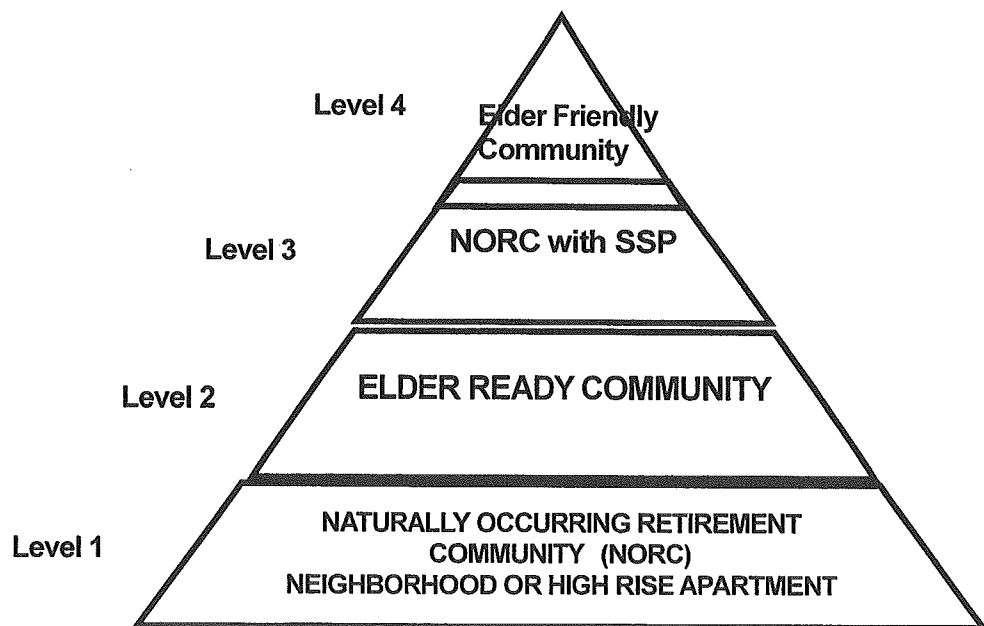
まず一つは、Naturally Occurring Retirement Communities(NORC)である。この地域では、団地や高層マンションそして近隣地域の60歳以上の人口が全体の半分以上と位置づけられる。

この地域コミュニティには、広義の高齢者支援システムが存在せず、建物の老朽化とともに住人の高齢化も進んでいる。

次にElder Ready Communitiesでは、福祉における社会的基盤存在がすでに存在し、高齢者が地域においてより安全に、そして快適に暮らしていけるための都市計画が行われている。この地域コミュニティにおいては、後述するElderly Friendly Communitiesとともに、高齢者の居住環境としては理想的で、多世代間交流なども行われ、望ましい地域コミュニティの様相を呈している。

NORC with Social Supportive Program (SSP)は、第一分類のように高齢化がかなり進んでいるものの、地域における高齢者支援システムが存在し、緊急時などの対応も行われている地域コミュニティを意味する。

最後の類型であるElder Friendly Communitiesは、高齢者にとっては一番望ましく、社会福祉基盤の質や量とも高い評価を受けている地域コミュニティを指す。以上の合計四分類された地域コミュニティは、下図のようにそれぞれのレベルごとの位置づけが可能である。

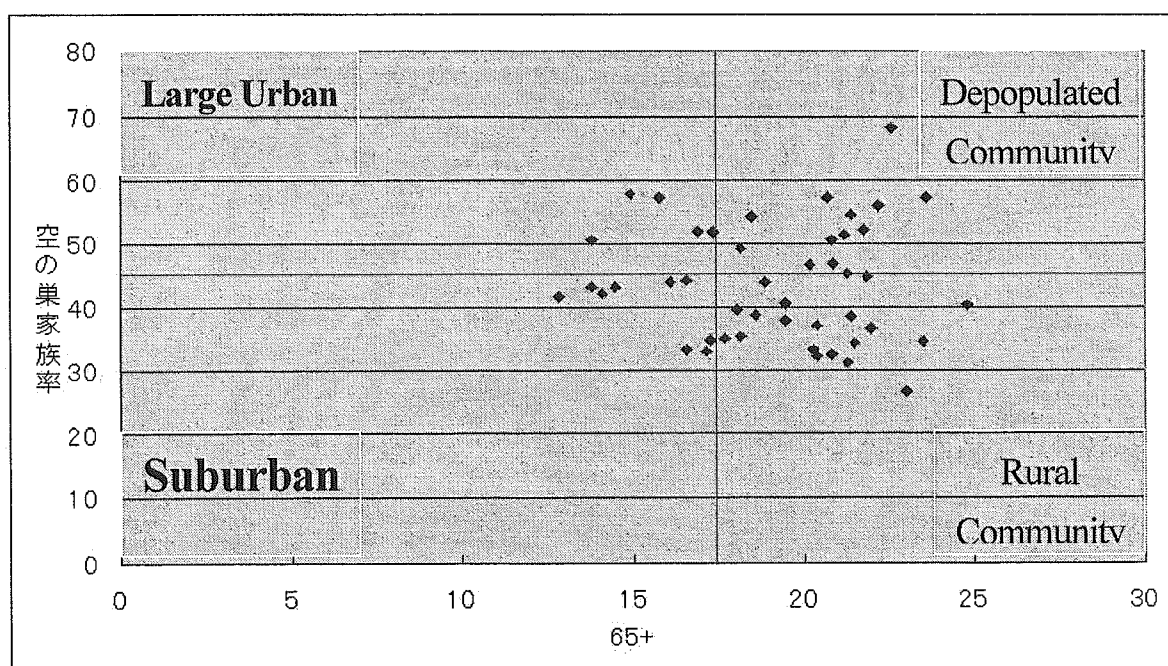


ここで問題となってくるのが、レベル1に位置づけされるNORCであるが、このような地域コミュニティには、包括的な地域サポートが必要となってくる。地域住民はもとより、介護、医療、福祉などのシステムの連携・協働から行政やさらに不動産にいたるまで様々な形で高齢者支援の枠組みを構築する必要がある。特に、様々な施設への送迎サービスの充実を始め

とし、地域の高齢者の生活ニーズを把握し、それをもとに福祉システムの強化を進めていく必要性が伺える。

## 5. 地域コミュニティの識別

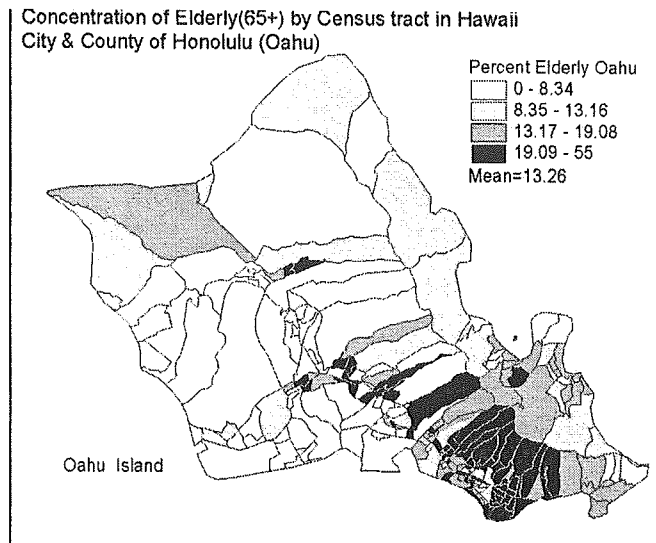
NORCの識別にあたっては、データに基づく分析が適している。例えば、高齢化とともに増加傾向を示す“空の巣家族(Empty Nest)”の割合では、図4のような捉え方ができる。日本全国における合計四つの地域コミュニティの分類を示したこの下図では、それぞれの地域が大都市部(Large Urban)、都市部周辺(Suburban)、過疎化地域(Depopulated Community)、そして田園地域(Rural Community)のように識別される。



Source: Takeo Ogawa, East Asia Center on Aging, Kyushu University, 2005

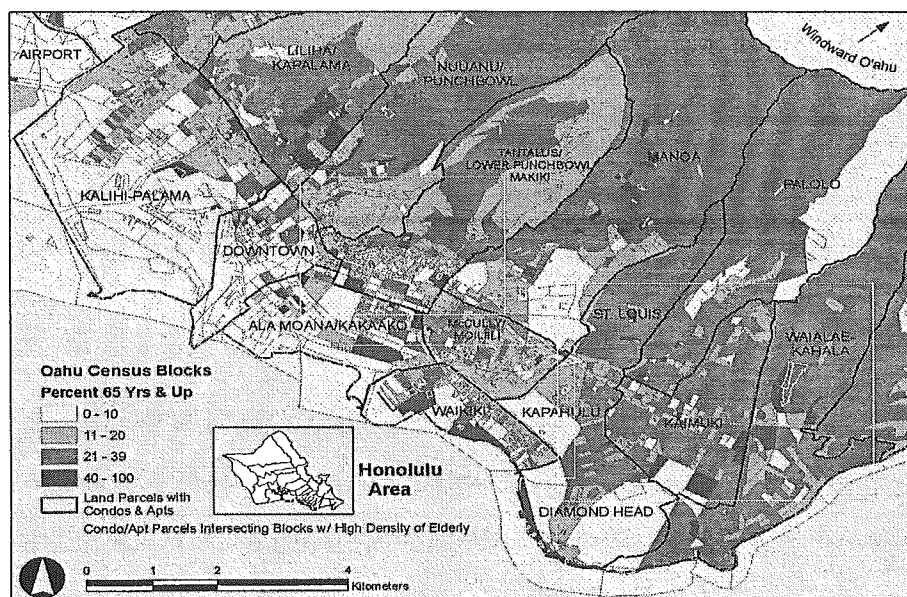
Blue dots: 46 Prefectures.

以上のような方法に加え、地図上におけるNORCの識別法の第一段階として、センサス情報に基づいたものが挙げられる。ハワイのオアフ島における65歳以上の高齢者人口の割合を示した次の図においては、高齢化が進んだ地域をより視覚的にまた正確に捉えることが可能となってくる。



Source: Year 2000 Census. U.S. Census Bureau.  
Information adapted to GIS Mapping for the Maluhia – UH  
LTC Development Center Project.

次に、上図によって得られた地図上のデータに各地の団地や高層マンションのデータを重ね合わせることによって、NORCの識別が可能となってくる(下図参照)。このようなNORCの識別法により、コストをかけることなくデータに基づいた地域査定が可能となってくる。





## 6. ハワイ州における高層マンション居住の高齢者の現状と問題点

このような地域査定の結果をもとにして、高齢者の現状を把握するのであるが、高層マンションにおいてまず問題になってくる点としては、マンションの規則やメンテナンスのあり方が挙げられる。特に、NORCにおける高層マンションの規則は高齢者にやさしい(Elder-Friendly)ものにする必要が出てくる。またメンテナンスの問題としては、照明をより明るくする、エレベーターの開閉の速度を遅くする、高齢者や身体障害者用の駐車スペースを確保するなど、様々である。このような問題点は、高齢者が主体となり、彼らのニーズを踏まえた上での解決や改善していく必要がある。

さらなる高層マンション居住の高齢者の問題点としては、徘徊行動、耳が不自由になってくることによる騒音(テレビやステレオ)、廊下での車椅子の通りにくさ、たまりがちな郵便物、さらには悪臭やゴキブリなども挙げられた。

このような問題点をもとに、ハワイ州のNORCの高層マンションの数箇所においてニーズ調査を実施した結果、高齢者がマンションや居住地域に望むこととして、以下のようなものがあった：

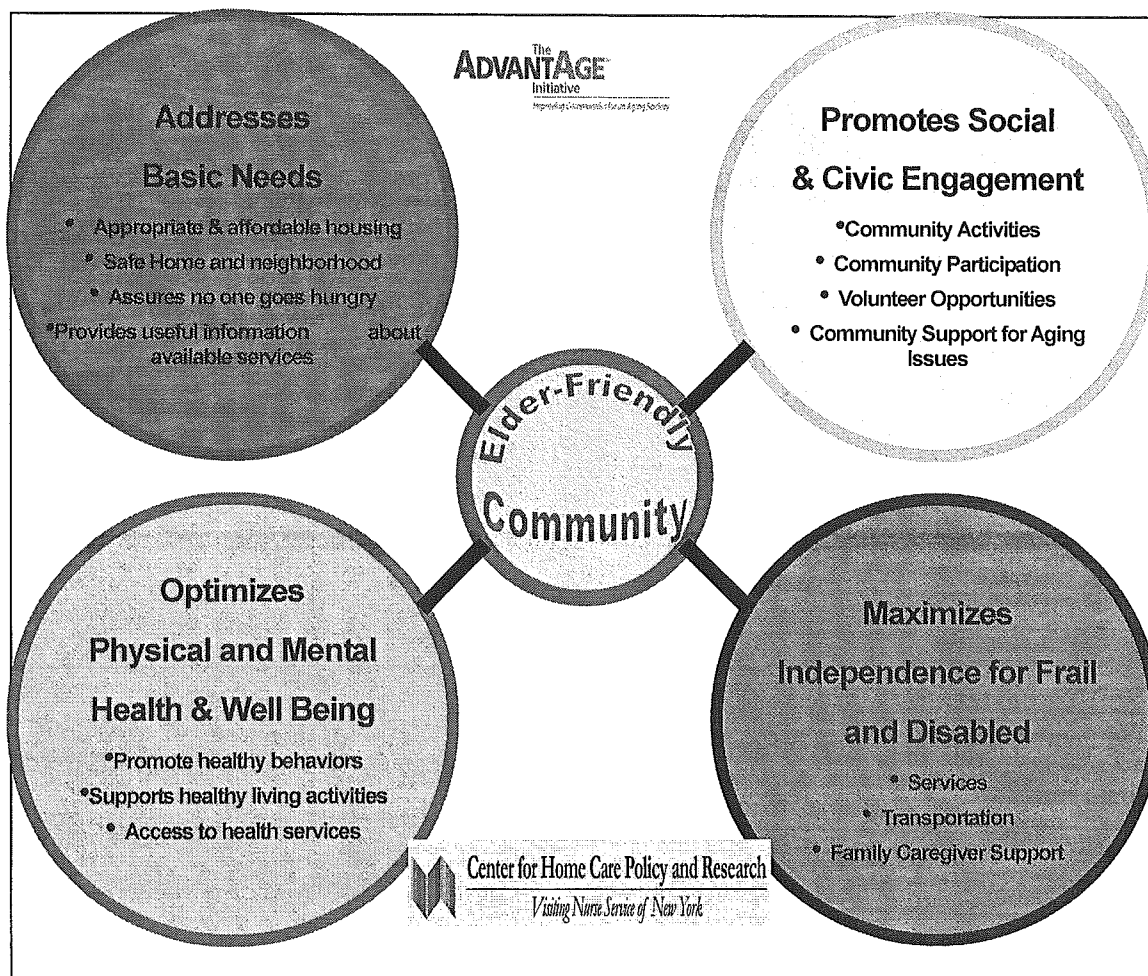
- 大事にされ、尊敬を受けたい。(Be valued and respected)
- いつまでも元気でいたい。(Stay active)
- コミュニティを形成し、多世代間の交流を持ちたい。(Build community and inter-generational relationships)
- 支援を受けながら、年をとっていきたい。(“Aging – in – place” with support service)
- 安全でいたい。(Feel safe)
- 必要なサービスを受けたい。(Get the services they need)
- 近所などに出かけたい。(Get around)

## 7. 高齢者にやさしい(Elder-Friendly)コミュニティ形成へ向けて

ニーズ調査における「大事にされ、尊敬を受けたい」や「コミュニティを形成し、多世代間の交流を持ちたい」という結果からもわかるように、高齢者には暮らしやすい地域コミュニティが必要となってくる。それでは、高齢者にとってやさしい、つまりエルダー・フレンドリー(Elder Friendly)な地域コミュニティとはどのようなものであろうか。

このようなコミュニティは、高齢者にとってよい環境であるというのが前提であるが、まず重要となってくる点としては、高齢者を地域の「お荷物」としてみるのではなく、人的および社会的な意味における資源(Resources)として捉える、ということである。つまり、高齢者をソーシャル・キャピタル(社会関係資本)として、地域において「活用」していこう、ということである。地域や近隣地区が一体となった世代間交流を推進するということも、高齢者の交流意図が高いことを踏まえると、重要となってくるであろう。

エルダー・フレンドリーな地域コミュニティを実現するためには、考慮すべき様々な点が挙げられる。例えば、リーズナブルな住宅の提供、医療や福祉サービスへのアクセス、適切な仕事やボランティア活動の機会の確保、社会的および文化的な活動の推進などがそれらにあたる。Center for Home Care Policy and ResearchによるThe AdvantAge Initiativeによると、エルダー・フレンドリーな地域コミュニティは、下図のようになる。



## 8. 「サービス提供型」コミュニティから「まちづくり型」コミュニティへ

エルダー・フレンドリーな地域を創造するにあたり、「サービス提供型」と「まちづくり型」の二類型におけるコミュニティの比較・検討が有用であると考えられる。具体的には、ハワイ州におけるCommunity-Based Service DeliveryとCommunity Developmentとの二類型における比較・検討となってくるのであるが、まず前者では、クライアントである高齢者からの要請等によりサービスの担い手である介護および福祉施設が設置される。各施設は政府や事業者によって運営され、それらの多くはクライアントへのサービスの質の向上がモットーとされる。一方で、政府等からの補助金の削減により、高齢者のニーズに合ったサービスの提供が難しくなってくるというケースも出てくる。

後者の住民参加型のコミュニティ・デベロップメントによる地域づくりでは、クライアントとサービス提供者が主に地域住民から構成されることにより、クライアントおよびサービス提供者がそれぞれの地域の担い手となってくる、または少なくともそのような高いコミュニティへの関心や意識がうまれてくるので、事業者にまかせっきりではない、望ましい形で高齢者福祉が実現する可能性があると言える。

## 9. 米政府の高齢化対策：ヘルスケアの側面から

最後に、米政府のヘルスケアの側面における高齢化対策についてであるが、第一に「どのようにしたらより有効的なヘルスケアが実現するか」(“How can we become more efficient?”)ということが重要になってくる。この問いは、「どのようにしたら少ない資源でより多くのことができるか」(“How can we do more with less?”)という問いにつながってくる。

よりアクセスがしやすく、統合されたサービスの提供と同時に、クライアントが中心となりサービスが選択できるようなシステムの構築が必要となってくる。従って、医療・介護・福祉の連携はもとより、施設および在宅でのケアにおいてよりバランスがとれた資源の分配法を考えることが重要となってくる。

Appendix A  
Summary of the Presentation

# Aging and Long-term Care Trends in Hawaii and the U.S.: The Role of Community Building

Presentation at the Dai-Ichi Hotel, Nishi-Tokorozawa, Japan

October 19, 2005

Cullen T. Hayashida, Ph.,D,  
Sociology, Center on Aging, Nursing, University of Hawaii at Manoa  
Kapiolani Community College  
Presentation Summary

## Introduction

This presentation provides an overview of the powerful forces that are affecting aging in Hawaii and the U.S. The senior population is exploding at the same time when government is facing major financial shortfalls and is therefore attempting to release itself from addressing this problem in any serious way. More resources from new sources are needed. This presentation suggested that there is a need to conduct a careful analysis of community capacity building as a way of extracting “social capital” to address senior issues.

## Aging Trends

1. Life expectancy in the Hawaii, the U.S. and the rest of the post-industrial world (including Japan) has been increasing very rapidly and is expected to continue increasing for much of the 21<sup>st</sup> Century.

2. One of the factors that has contributed to the crisis of the national budget is the high cost of senior care resulting from this demographic change. Medicare, Medicaid and Social Security alone are responsible for a very large proportion of the total federal budget that is not controllable due to the senior population growth. Already, the national debt is at \$7.9 Trillion and continuing to rise. While the national debt is caused by many factors including the national military expenditures, senior care is a contributing factor.
3. Because of the continuous rise in the national debt over the past 3 decades, the national government has been attempting to implement a number of policy changes to reduce the cost of some of its senior-related programs. Medicare, the national health insurance program for the elderly for example, has changed its method of reimbursement so that elderly patients are forced to leave hospitals quicker and sicker. Medicaid, the national and state insurance program for the poor has also cut back on payments to nursing homes. Consequently, nursing homes are faced with reduced reimbursements that affect their ability to hire quality workers. All in all, we are seeing the “devolution of government responsibility” from the federal level to the state and the county governments. In turn, County governments are creating policy changes that are resulting in families and the seniors themselves to do more or go without any services.
4. As government is relegating more responsibilities on to families and the seniors themselves, families are also witnessing significant changes that challenges its ability to assume burden of senior care. Many changes such as the reduction of family size, lessening of multi-generational households, increased physical distance between generations and the older age of caregiving by adult children are hampering the same level of family commitment in family care as generations past.

#### **Development of Community Capacity as a Social Capital**

1. The thesis of the presentation is that finding solutions to the challenges of the senior care is in part found in seniors themselves and in communities. Seniors have been said to be “one of our largest largely untapped and expanding natural resource”

according to Marc Freedman. Likewise, there has been more theoretical discussions on the development of concepts related to Naturally Occurring Retirement Communities (NORC) to understand what can be done to use the resources of the community to support seniors and to marshal their services for the community as well.

2. The concept of NORCs is evolving from a community that demographically has 50 percent or more of its residents who are seniors. Other concepts are being used refer to communities that are “elder ready” to “elder friendly”. The development of these concepts will continue as more research is done in this area.

#### **Development of Methodologies to Identify NORCs**

1. Three methods were discussed to identify NORCs. Two were related to geographic areas using either percent elderly alone (Hawaii example) or the combination of percent elderly and the percent of empty nest families (Fukuoka example). In addition, work is also being developed to create another methodology to identify high rise apartments or mansions with a high percentage of elderly in Hawaii.
2. The method to identify High Rise NORCs combined both GIS mapping techniques and information of High Rise property maps. Using this technique it was possible to identify approximately 87 high rise NORCs on the island of Oahu (Hawaii) out of a total 2500 mansions using 2004 data. This methodology will provide government planners to strategically use their limited resources in such a way as to find those high rises that are most likely to respond to assistance.

#### **Findings of Survey of High Rise NORCs**

1. There are a number of elderly related problems that have been identified in High Rise Mansions that have a high concentration of elderly. Many of those problems such as wandering, roach infestations, urination – defecation problems, fire hazards, unread mail, bill payment delinquencies, smells, TV pollution, falls, etc. are commonly mentioned.
2. Many of the problems associated with the elderly in High Rise Mansions are associated with rule violations, policy or physical structure (lack of universal design) problems and safety issues. Many of the problems associated with seniors in High

Rise NORCs could be addressed with little or no cost but with a more elder friendly culture.

#### **Methods of Engaging High Rise Communities to Develop Elderly Friendly Communities**

1. Find: Finding High Rise Communities using the methods proposed is but the first step of reducing the task of selecting those that are truly most likely to have the highest concentration of elderly.
2. Assess Organization Capacity: Having Eliminated those High Rises that are least likely to have a high concentration of seniors, the remaining NORC Mansions should be evaluated individually to determine their degree of organizational capacity. To what degree are these Mansions organized? Is it possible to identify those that have more indications of organizational activities and capacities and leadership in comparison to others.
3. Assess Elderly Friendly Culture: While it may not be easily discernable, it will be useful to assess the presence or absence of an elder friendly culture. Is there any indication of activities or policies present that suggest that the management, the resident manager or the Mansion's association has done anything to support seniors in anyway? To the extent that it is possible to discern High Rise NORCs that have some semblance of elderly friendly culture combined with #1 and #2 above, these are probably the best NORCs to begin working with to further develop their community capacity. Working with these types of facilities will probably provide the best opportunities for success.
4. Assuming that there are several facilities that could be engaged, it may be possible to eventually engage all of these facilities to support each other and possibly share resources if they are physically proximate to each other. The work for community capacity building for each of these communities such include: (1) relationship building; (2) identification of needs, assets and resources within; (3) development of skills and knowledge (leadership, common vision, common values); and (4) mobilization for community action.

## Conclusion

The work of community capacity building is still a work in progress however it represents one of the yet untapped resources that is being explored. The entire approach shifts the burden of responsibility from agencies and government that attempt to build service delivery infrastructure to building the capacity of community participants, increasing their control. Without discounting the importance of the former, this approach seeks to affirm the added value of the latter. People who are socially engaged and socially connected are assumed to be healthier.

## References

1. Robert D. Putnam. Bowling Alone: The Collapse and Revival of American Community. Simon & Schuster. 2000
2. Marc Freedman. Prime Time: How Baby-Boomers Will Revolutionize Retirement and Transform America. Public Affairs; 1st edition (January 1, 2000)
3. Joann Schneider. The Role of Social Capital in Building Healthy Communities. Policy Paper of the Annie E. Casey Foundation. November 2004
4. John P. Kretzmann and John L. McKnight, Co-Directors with Sarah Dobrowolski, Project Coordinator and Deborah Puntenney, Ph.D. A Community-Building Workbook from the Asset-Based Community Development Institute School of Education and Social Policy. Northwestern University.
5. John P. Kretzmann and John L. McKnight. ABCD Institute Web-site: <http://www.northwestern.edu/ipr/abcd.html>



# 資料 1

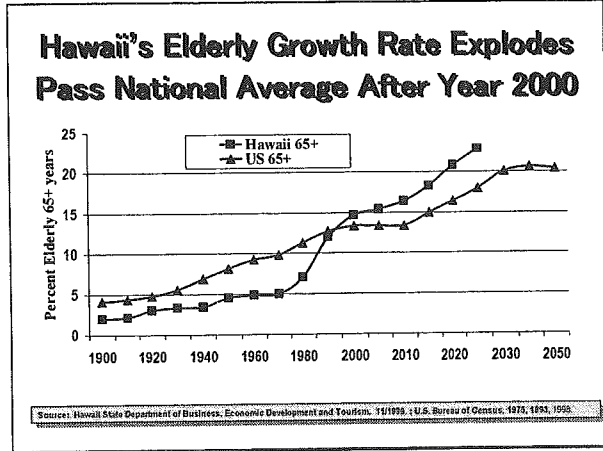
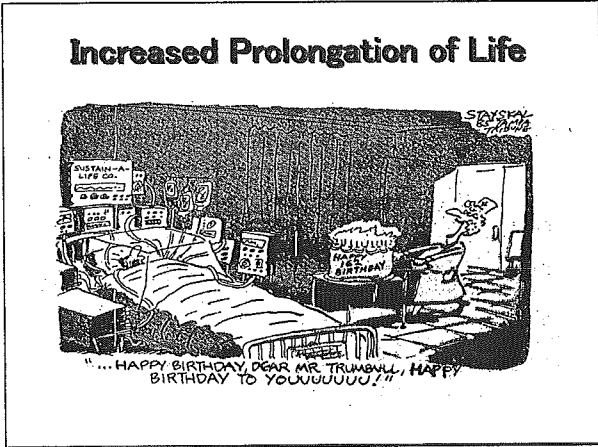
アメリカ大都市近郊地域の高齢者の現状と地域福祉 (発表資料)

**Aging &  
Long-term Care Trends  
in Hawaii & the U.S. :**

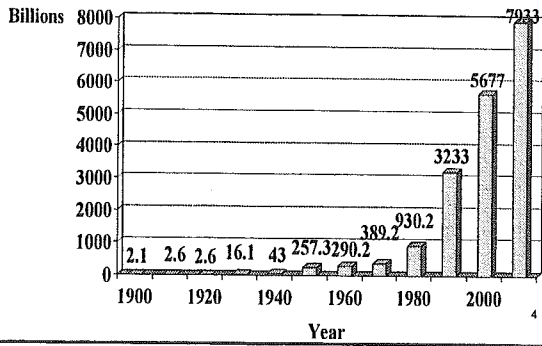
**The Role of Community Building**

Cullen T. Hayashida, Ph.D.  
Sociology, Center on Aging, Nursing  
University of Hawaii at Manoa &  
Kapiolani Community College

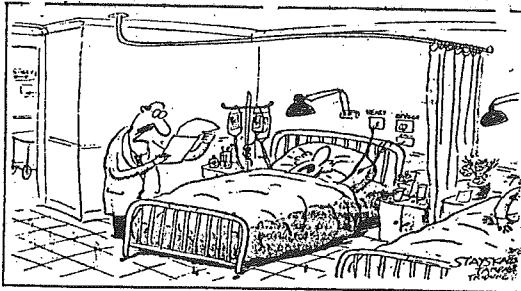
October 2005



**U.S. National Debt at \$7.93 Trillion and Climbing: 1900 to 2005**

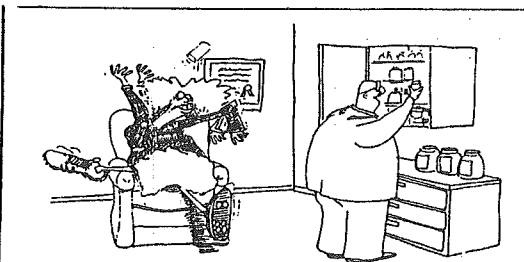


**Solution: Patients Leaving Hospitals Quicker & Sicker**



*"Your blood pressure and temperature are way up, but your Medicare coverage is way down. Looks as if you can go home today, Mrs. Fitch"*

**Symptoms of Caregiver Stress & Burden**



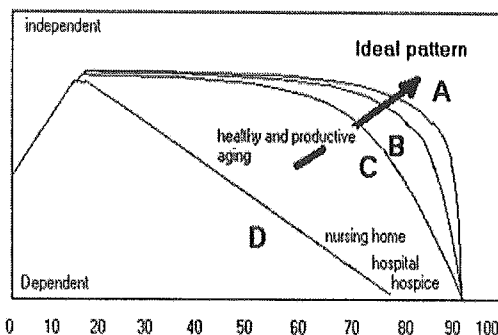
*Just nod, Mrs. Caregiver, if you think that anti-depressant is too strong.*

## Family Trends – Reduced Family Strength?

- Reduced family size
- Less Multi-generational households
- Increased physical distance
- Caregiving by adult children at later age
- Changes in traditional role of women
- Urbanization = Smaller living quarters
- Changes in traditional values: Family -> individualism

7

## GOAL: Adding Life to Years



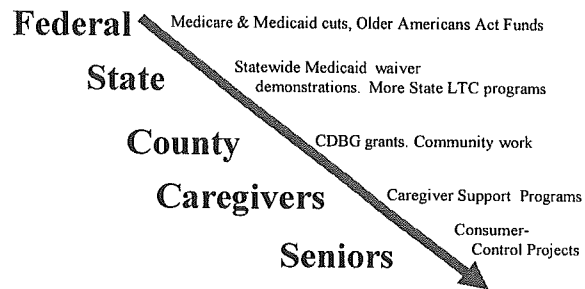
## Is the Change in Reimbursements Going to Affect Quality?



"I DON'T KNOW WHY YOU'RE SO GRUMPY. THE ODDS ARE FOUR TO ONE IN YOUR FAVOR THAT THIS IS THE RIGHT DOSE OF THE RIGHT MEDICINE AT THE RIGHT TIME."

Used with permission of Fort Worth Star-Telegram

## Devolution of Responsibility



10

## What Are We Trying To Achieve?

- Healthy Aging, Successful Aging?
- An Adequate LTC Delivery System?
- A Balanced Long-term Care System?
- An Elderly Friendly Community

11

## OBJECTIVES

- Improve the adequacy of the Elderly Care delivery system
- Recognize Seniors/Retirees as Social Capital or Assets
- Create Infrastructure to use the assets, skills and resources of retirees to improve the community

12